

日本の夜と霧 (1960)

メディア 映画
ジャンル 青春 ドラマ
製作国 日本
色彩 Color
時間 107分
初公開日 1960/10/09

【解説】

大島渚が石堂淑朗とともに書いたシナリオを監督。安保闘争や学生運動を描き、公開四日目にして上映打ち切りとなった問題作。大島渚はこの作品がきっかけで松竹を退社した。

安保闘争で結ばれた野沢と玲子の結婚式。二人はかつて学生運動で戦っていた。そこへ逮捕状の出ている全学連の太田が乱入し、国会に向かったまま消息を絶った後輩の北見の話 시작했다。さらに会場に現れた宅見の口から、自ら命を絶った高尾の過去が告げられる。党からスパイの嫌疑がかけられた高尾は、党の方針転換に抗議すべく自殺したのだった。さらに野沢と、友人の妻の美佐子との関係まで暴露され、玲子は式場を出てしまう。玲子を追って外に出た太田は、その場で刑事たちに取り囲まれた。

【クレジット】

監督 大島渚 Nagisa Oshima
製作 池田富雄
脚本 大島渚 Nagisa Oshima
石堂淑朗
撮影 川又昂
美術 宇野耕司
音楽 真鍋理一郎
出演 桑野みゆき
津川雅彦
小山明子
渡辺文雄
芥川比呂志